

「帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域」最終報告書

〔地域名：愛知県稲沢市〕

帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域の概要

1 平成14年9月1日現在の推進地域内の帰国・外国人児童生徒数

海外帰国児童生徒在籍数	3
中国等帰国児童生徒数	0
日本語指導が必要な外国人児童生徒数	57

2 推進地域の特色

本市は、愛知県の西部に位置し、市内を縦貫するJR東海道本線と名鉄名古屋本線を利用すれば名古屋駅まで約10分という交通の便の良さから、近年、名古屋市ベッドタウンとして多くのマンションや公共住宅が建ち並ぶようになってきた。市内は大まかに、住宅・商業地域を中心とする東部と植木・苗木栽培を代表とする農業地域としての西部に分けることができる。

人口は10万余人で、工場で働く日系ブラジル人を中心とした外国人が徐々に増え、現在では約1,700人が住んでいる。外国人の6割を占めるブラジル人の多くは、名鉄国府宮駅近くにある県営高御堂住宅に住んでおり、本市では平成5年度に高御堂小学校、平成9年度には稲沢中学校に日本語適応学級を設け、外国人児童生徒への指導に当たっている。また、平成10年度からは、ポルトガル語の語学指導助手を採用し、ブラジル人児童生徒が在籍する小中学校を巡回している。しかし、来日時期や家庭環境の違いから日本語の習得や学校生活への適応状況は様々である。また、最近では、ブラジル人の生活する地域が特定の居住区に集中する傾向があり、周囲とのトラブルが出始めている。

3 帰国・外国人児童生徒の実態

外国人児童生徒の多くは日系ブラジル人生徒であるが、近年では、中国籍やフィリピン籍などの生徒も就学している。ほとんどの場合、親が就労のために家族を連れて来日していることによるものである。

外国人児童生徒の就学については、親の考え方により大きな違いが生じている。子どもに日本語能力や学業を身につけさせ、子どもの将来に生かしたいと願う親もあれば、子どもの就学に対して関心が低く、子どもを就学させずにアルバイトをさせたり、就学させても、学校での生活や学習に無関心な場合もある。

外国人児童生徒の日本語能力は、小学校段階で来日した生徒は日本語指導によって日常会話ができるようになってきている傾向にあるが、中学校段階での来日の場合は、日本語がほとんど、あるいは全く分からないことが多い。学習については、来日の時期により、母国で身につけている学力の程度は生徒一人一人によって様々である。年齢によって第何学年という具合に就学したとしても、その学年の内容からスタートすることは、日本語能力とこれまでの学習の両面からたいへん難しい。

さらに、日本経済の景気動向により彼らの生活は不安定で、就学したものの、家庭の事情で途中退学して帰国する場合も多くなっている。

帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域センター校の概要

1 学校名 愛知県稲沢市立稲沢中学校

校長名 服部 基治

所在地 愛知県稲沢市正明寺二丁目1番1号

学校規模 生徒数 503名(学級数16), 職員数 39名

電話番号 0587-32-2168 FAX番号 32-2169

ホームページ <http://www.city.inazawa.aichi.jp/school/>

[js-inazawa/js-inazawa_top.html](http://www.city.inazawa.aichi.jp/school/js-inazawa/js-inazawa_top.html)

交通機関 名古屋鉄道本線国府宮駅下車 東へ徒歩3分

2 日本語適応指導対象在籍生徒数(母語別,平成15年1月7日現在)

	ポルトガル語	スペイン語	タガログ語	中国語	タイ語	合計
1年生	7	0	1	1	0	9
2年生	3	0	0	0	0	3
3年生	2	0	1	1	1	5

他校からの通級生徒は無し

3 センター校での指導時間及び指導内容（平成15年2月1日現在）

・取り出しによる指導

担当教員3名が合計週36時間、日本語学級での個別指導を行っている。そこでは、基礎的な日本語能力を身につけさせるために各種のプリントを使って、ひらがなやカタカナ、漢字や言葉の練習を進めている。また、数学や英語など教科の個別指導も行っている。

・入り込みによる指導

日本語能力がある程度身につけている生徒に対しては、原学級での教科の授業において語学指導助手や担当教員が生徒の傍らにつき、母語や易しい日本語で説明を加えることで理解を助けている。

4 センター校を中心とする帰国・外国人児童生徒指導協力体制

平成15年1月7日現在、日本語適応指導を必要とする児童生徒が在籍するのは、小学校が5校、中学校はセンター校以外に1校ある。稲沢市では、外国人児童生徒教育を円滑に進めるため、平成11年度より「日本語教育推進委員会」を設け研究活動を進めてきた。今回の推進地域の指定を受け、外国人児童生徒数が多い稲沢中学校をセンター校に、その校区にある高御堂小学校を小学校における研究活動拠点校とし、適応指導のためのカリキュラムや外国人保護者への案内文作りなどを進めている。そこで作成されたものは、各校の外国人児童生徒教育担当者が集まる推進員委員会での話し合いをもとに修正を加えられた後で配布するようになっている。また、適応指導に必要な教材や参考書などについてもセンター校を中心に収集した情報をもとに購入して各校に配布している。なお、予算にも限りがあるので、数多く購入できないものについては、センター校や拠点校に配置し必要に応じて各校へ貸し出している。

帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進体制の整備

1 教育国際化推進連絡協議会の概要

(1) 構成員

- ・顧問 1名（学識経験者）
- ・会長 1名（稲沢市日本語教育推進委員会委員長）
- ・副会長 1名（ " 副委員長）
- ・委員 21名
 - 稲沢市教育委員会 1名
 - 稲沢市国際友好協会 1名
 - 語学指導アドバイザー 1名
 - 地域住民代表 2名
 - 稲沢市秘書広報課 1名
 - 稲沢市語学指導助手 1名
 - 小中学校担当者 12名
 - 地域在住外国人 2名
- ・事務局 3名（稲沢市教育委員会 1名 センター校 2名）

(2) 活動状況

推進連絡協議会準備会（5月）

- ・参加者15名、稲沢市日本語教育推進委員会を兼ねて開催。
- ・第1回稲沢市教育国際化推進連絡協議会に向け、今年度の活動計画や当面する諸問題について検討した。

先進校視察

・豊田市立高嶺小学校（6月）

日本語授業参観、講演会「子どもに応じた指導の仕方」への参加

第1回稲沢市教育国際化推進連絡協議会（6月）

- ・今年度の活動計画について決定した。
- ・各委員がそれぞれの立場から現在の活動状況や抱えている問題点などを報告し合うと共に意見交換を行った。今年度からは、新たに地域住民代表並びに地域に住む外国の方にも加わっていただくことになり、それぞれの立場から、本協議会への要望などをお話いただいた。

・顧問の松本一子先生（愛知淑徳大学講師）による研修「地域との連携をどのように進めるべきか」を行った。

第2回稲沢市教育国際化推進連絡協議会（10月）

- ・研究発表会の概要について説明すると共に、これまでに小中学校で進めてきた国際理解

教育について報告した。

・地域の代表者や国際友好協会などから、小中学生が参加している交流活動について報告を受け、今後の活動に向けて意見交換を行った。

・顧問から研究活動について助言を受けた。

教育の国際化推進地域事業研究発表会（10月）

・会場：高御堂小学校 参加者：約200名

・稲沢中学校並びに高御堂小学校における外国人児童生徒への適応指導や国際理解教育、稲沢市教育国際化推進連絡協議会の取り組みなどについて発表した。また、記念講演として、顧問の松本一子先生による講演「異文化と暮らす子ども達」を行った。

・公開授業などへの高い評価をいただくと共に、小学校と中学校の連携や地域に向けての情報発信などについて意見をいただいた。

第3回稲沢市教育国際化推進連絡協議会（2月）

・これまでの2年間にわたる活動の成果と15年度に向けての課題について意見交換を行った。

・顧問から「今後の活動に望むこと」と題して、15年度における研究活動について助言を受けた。

外国人保護者を対象とする教育相談会

・第1回（5月開催。参加者：保護者6名，児童・生徒2名）

・第2回（8月開催。参加者：保護者6名，児童・生徒4名）

・第3回（12月開催。参加者：保護者2名，児童1名）

・第4回（2月開催。参加者：保護者8名，児童2名）

(3) 協議会設置の効果

昨年度の反省から、今年度は、新たに地域住民の代表として「まちづくりの会」から2名、地域に住む外国人2名に参加していただいた。これまでは、行政や学校関係者がそれぞれの立場から国際化について活動を進めてきた。それが、昨年度より稲沢市教育国際化推進連絡協議会という共通の場で意見交換ができるようになり、地域全体が一つになって活動を進めることの重要性を互いに自覚するようになった。しかし、行政や学校が行っている国際化のための活動を住民へ広報することはあっても、住民からの意見を学校へ届けるための道筋はほとんどつくられていなかった。それが、この協議会を通して、学校を取り巻く地域で進んでいる国際化の具体例や、学校の国際理解教育に対する地域在住外国人の期待の大きさを直接聞くことができ、学校と地域とが一体となって活動を進めるための具体的な方策を考えられるようになってきた。

2 加配教員の活用状況

センター校の稲沢中学校では、12年度までは1名の加配教員が配置され日本語学級での指導に当たっていた。しかし、1名の教員で20名近い生徒の指導に当たらなければならず、語学指導助手や他の教員の応援を得ても十分な時間を確保するのが難しかった。そうした状況の中、推進地域の指定による加配教員が1名増えたことにより、担当教員1名が担当する外国人生徒の数が減り、個別指導の内容が充実してきた。また、時間割編制にも余裕が出てくるようになり、数学や理科などの授業への入り込みによる指導が可能になった。

3 教育相談員の派遣状況及びその効果

稲沢市の語学指導助手1名に加え、推進地域の指定により新たに1名の語学指導アドバイザーを配置することができた。その結果、語学指導のため巡回する日数が大幅に増え、外国人児童生徒や各校の担当者から大変喜ばれている。特に、日本語がほとんど話せない児童生徒にとって語学指導助手は、語学指導だけでなく悩み事を母国語で話せる大切な相談相手だけに、来校日が増えたことで意欲的に登校するようになった児童生徒が見られるほどであった。また、学校での懇談会や教育相談会での相談活動も2名体制での実施によって、保護者をほとんど待たせることなく、また、保護者の希望日に沿いながらできるようになった。

平成14年度の具体的な取組内容とその成果等について

1 研究主題

稲沢市では、昨年度から小学校への新就学児童が多くなり、小学校に在籍する外国人児童

の約半数は1・2年生である。また、外国人保護者の在日期間の長期化に伴い、日本で生まれ育った在日二世といわれる子どもたちが保育園に入園するようになってきた。中学校に在籍する外国人生徒の場合においても、以前は大半の家庭が数年で帰国するという事情もあり卒業後に進学を希望することはほとんどなかったが、ここ数年、子どもたちの将来を考え、また、子どもたち自身の希望もあって高校や専門学校への進学を希望する家庭が増えている。こうした状況の中、外国人児童生徒がより安心して生活していくには、学校や地域社会の受け入れが何よりも必要である。そのためには、学校が先頭に立って国際理解や異文化理解を進めていかなければならない。一方、日本人児童生徒にとっても、外国の人々と同じ地域に住み、共に学ぶことができるということは、外国を身近に感じるだけでなく外国の様々な文化などを直接学ぶことができる絶好の機会でもある。日本人と外国人が手を携えて共に暮らすことができる地域を築いていくことが、まさに国際社会で生きることなのである。そこで、日本人児童生徒と外国人児童生徒が互いに啓発し合いながら、地域の国際化をめざすことをねらいとして、以下のような主題を設定した。

国際社会に生きる心豊かな児童生徒の育成
- 異文化の理解・体験を中心とした活動を通して -

そして、稲沢市教育国際化推進連絡協議会、稲沢市日本語教育推進委員会、国際化推進センター校（稲沢中学校）、研究拠点校（高御堂小学校）が一体となり、様々な活動に取り組んできた。

2 研究主題に関連した活動及びその成果

(1) 地域社会への啓発活動及び地域との交流活動

高御堂小学校では、授業参観日や「高小まつり」、学習発表会などの月1回程度の学校公開日を設け、保護者をはじめとする地域の人々に国際理解教育における学校での取組の成果を知らせた。また、10月に開催した国際化推進地域事業発表会にも保護者や地域の人人を招き、各学年の発表だけでなく国際学級に在籍する外国人児童による発表を行った。また、稲沢中学校では、校区内の全家庭に回覧する「学校だより」や「PTAだより」を通じて、学校で取り組んでいる国際理解教育の活動内容を紹介した。これらの結果、小中学校での活動に対する数多くの意見やボランティア講師への参加をいただくことができた。

(2) 適応指導カリキュラムの作成

研究拠点校である高御堂小学校では、昨年度から、語学指導助手の協力を得て「日本語適応指導カリキュラム」の作成を進め、今年度は、内容の充実に努めてきた。これは、挨拶や学校生活用語など生活に必要な場面を想定して日本語指導に当たるためのものであり、高御堂小学校だけでなく、外国人児童生徒が在籍する各校でも利用しながら内容についての検討を加えてきた。その結果、それまでは外国人児童生徒が在籍していなかった学校や加配の担当教員がいない学校においても、日本語の初期指導が大変行いやすくなった。また、センター校の稲沢中学校では、教科指導の補充のために必要な数学のカリキュラムを作成した。その結果、生徒一人一人の能力に応じた指導を、また、時間ごとに担当者が変わることがあっても系統的な指導を行うことができるようになった。

(3) 相談活動の充実

地域に住む外国人児童生徒の就学を円滑に進めるため、昨年度から相談活動の充実に努めてきた。今年度は、就学して間もない児童生徒や保護者の不安に対応するため、5月にも開催するようにした。参加者からは、小中学校での持ち物や学習に対する疑問、児童センターへの入所方法に関する質問などが出された。小中学校や市教育委員会の担当者が、それぞれの相談に対応することで保護者の不安解消に努めた。その後も、8月・12月・2月と会場を変えながら開催してきた。また、開催に当たっては、小中学生だけでなく、就学前の子どもをもつ保護者にも参加を呼びかけるため、保育園などを通じた広報活動も実施した。その結果、毎回1組ではあったが、小学校入学に備えるために訪れた保護者もあった。

3 推進地域としての取組及びその成果

連絡協議会を中心に、小中学校が核となり2年間の活動を進めてきた。その中でも、とりわけ大きな力になったのが、各委員の様々な立場からの意見であった。推進地域としての活動が始まったことで、地域が抱える共通の問題としての意識が高まってきた表れであるといえる。

顧問からは、指導者研修会を通じて外国人児童生徒への効果的指導法や先進地域の例をもとにした地域への啓発活動を、地域の代表者からは、住民同士で行う交流活動や小中学生の参加方法などを提言していただいた。また、地域に住む外国人の方からは、小中学校での国際理解活動への助言や地域で取り組んでほしい活動への提言をいただいた。

一方、稲沢市国際友好協会は、外国人講師による各国の料理講習会や外国人の方に日本の文化を紹介するためのバスツアーなどを開催し、小中学生にも参加を呼びかけながら異文化の相互理解に大きく貢献した。市役所秘書広報課は、小中学校における国際理解活動のための資料提供だけでなく、多方面の外部機関を紹介した。

これらの成果とともに、今後、当地域が取り組んでいかなければならない問題点が明らか

になったことも大きな成果としてとらえていきたい。それは、次の4点である。

- ・ 外国人児童生徒に対する特別支援教育のあり方を考える。
- ・ 心に障害をもつ外国人児童生徒に対する相談活動における外部専門機関との連携のあり方を考える。
- ・ ブラジル人を中心に在日二世が保育園に増えてきた現状から、小中学校における教育だけでなく、保育園も含めた活動のあり方を考える。
- ・ 小中学校で行われている交流活動を中心に、保護者とともに地域住民がより多く参加できるよう活動の拡大を図る。

4 帰国・外国人児童生徒とその他の児童生徒の相互啓発の観点による取組及びその成果

稲沢中学校、高御堂小学校とも取り組んできたのが総合的な学習の時間を利用した国際理解教育である。

高御堂小学校では、学年ごとに次のようなテーマに取り組んできた。

1年「日本や外国の遊びをしよう」	2年「外国のお祭りを楽しもう」
3年「外国の音楽に親しもう」	4年「外国のくらしの様子を調べよう」
5年「世界の食を追究しよう」	6年「日本のルーツを探ろう」
国際学級「むかしばなしをたのしもう」	

また、稲沢中学校でも、次のテーマに取り組んできた

1年「地域のことを外国の人に知らせよう」
2年「日本と外国の関わりや問題点を考えよう」
3年「地域の国際化を進めよう」

これらの活動の中で、児童生徒は互いにもっている自分たちの文化を教え合うということを経験した。こうした経験を通して、日本人・外国人児童生徒ともに母国の自然や文化について、自信を持って友だちに話すことができるようになってきた。また、中学校の活動の結果、外国人の友だちだけでなく地域に住む外国の人々にも目を向け、誰にも暮らしやすい「まちづくり」について自分の考えを持てる生徒が増えてきた。

5 地域と連携した活動及びその成果

高御堂小学校、稲沢中学校とも、地域に住む外国の人々を講師として総合的な学習の時間や学習発表会、学校祭における交流活動などを進めてきた。その中で、ブラジル人をはじめとして中国やフィリピン、タイの人々と一緒に活動することができた。中学生であれば、自分たちの地域にブラジルの人々が多く住んでいることは誰もが知っている。しかし、それ以外にも多くの国の人々が身近に住んでいることを、生徒たちは今回の活動で理解した。また、講師の中には外国人児童生徒の保護者やその知人も含まれており、今回の活動をきっかけとして講師の輪が広がってきた。

6 連携した団体等の概要

今年度の小中学校での活動でも、外国人講師の紹介や外国文化の情報収集などにおいて稲沢市秘書広報課の国際交流担当や稲沢市国際友好協会の全面的な協力を得た。

稲沢市国際友好協会は稲沢市商工会議所内に事務局が置かれ、地域に住む外国の人々と市民との交流を進めるため様々な活動を行っている。また、外国人ボランティアの登録や紹介なども行っている。

7 その他特筆すべき平成14年度の成果

特になし